平成２８年１１月２４日

平成２８年度　第２回

東大和市総合教育会議会議録

東大和市教育委員会

平成２８年度第２回東大和市総合教育会議会議録

１．日　　時　平成28年11月24日（木曜日）午後３時30分～午後４時25分

２．場　　所　東大和市中央公民館３０１学習室

３．出 席 者　市　長　　尾　崎　保　夫

教育長　　真　如　昌　美

委　員　　武　石　修一郎

委　員　　岩　田　圭　子

委　員　　藤　宮　志津子

委　員　　新　藤　久　典

４．欠席委員　　なし

５．説明職員

学校教育部長　阿　部　晴　彦　　社会教育部長　小　俣　　学

学校教育部参事兼指導室長　岡　田　博　史　　学校教育課長　岩　本　尚　史

６．書　　記

庶務係長　福　嶌　まゆ美　　主　　事　平　原　覚　仁

○議事日程

第１　協議事項

（１）点検及び評価について

午後　３時３０分開会

◎開会の辞

○尾崎市長　皆様、こんにちは。

今年総合教育会議は２回目ということになりますが、総合教育会議で、いろいろと皆様と意見交換をできればと話を進めているわけです。昨年と、そして今年、第１回と含めて、今までの総合教育会議につきましては、いろいろなお話ができたかなと思っています。また皆様方、教育委員会と私の考え方も、同じ方向に進んでいるかなと思っているところであります。

特に学校教育、学力の向上は、就任以来、お願いしてきたわけですが、そのあたりのところの成果も、少しずつ出始めたかなと思っています。また、私どもでは、「日本一子育てしやすいまちづくり」の大きな位置づけとして、教育施策ということもなっているかなと思っています。これからもいろいろな面で、子どもたちの健全育成に力を入れていってほしいなと思っています。

特に最近は子育ての関係では、具体的にいろいろなお話が私のところにも来ますし、学校の中身についても、ＰＴＡを含めていろいろな方とお話しする中で聞いています。総体的には、いいお話があるかなと思っていますが、今後もぜひいろいろな面で、皆さん方のお力が必要になってくるのかなと思っていますので、よろしくお願いします。

また、給食センターも新しくできましたので、その活用等も含めて、今後も食育に力を入れていってほしいなと思っています。

それでは、本日の会議ですが、運営要綱に基づき、本会議は公開ということになっていますので、そのあたりのところを皆様方にもご理解をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

◎協議事項

○尾崎市長　それでは、次第に沿って進めてまいります。

本日の協議事項といたしましては、「点検及び評価」を取り上げました。ぜひ、中身につきまして、傍聴の方もいらっしゃいますので、確認の意味も含め、位置づけ等、内容について事務局から説明をお願いいたします。

はい、どうぞ。

○阿部学校教育部長　それでは、教育委員会の点検及び評価の制度についてご説明申し上げます。

教育委員会は、法に基づきまして、毎年、事務の管理、執行の状況について点検・評価を行い、報告書を作成し、議会に提出し、公表しております。

点検及び評価の目的は、教育委員会が事前に立てた基本方針に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかを、まずみずからがチェックし、その上で外部の有識者のご意見を聴取し、教育委員会のさらなる活動の充実を図ることを目的としております。

点検及び評価の内容でありますが、対象は今回でいいますと平成27年度の教育委員会の運営の状況、そして平成27年度の教育委員会の基本方針に基づいた主要な施策、事務事業の振り返りでございます。

点検及び評価の方法につきましては、取組状況、成果、そして課題の方向性を示した上で、毎年度１回の実施をしております。当市では、３名の学識経験者の皆さまのご意見をいただき、報告書にまとめ、市議会へ提出し、公表をしております。

以上でございます。

○尾崎市長　ありがとうございました。

今回、第２回目の総合教育会議ということですが、昨年に引き続き教育委員会の点検及び評価を協議事項とすることで、この点検及び評価については、教育委員会の事業でいえば振り返りという形になるかなと思います。その事業について、教育の学識経験者である点検評価委員の方から評価を受けておりますので、現在の進捗状況、今後の課題について話し合う、いい材料であるかなと考えております。

この報告の中から、点検評価委員の方からいただいた意見を参考に、関心の高い共通のテーマを４つ、協議項目として取り上げさせていただきました。「学力向上への取組み」、それから「学校・家庭・関係機関の連携の強化」、そして「児童・生徒の各種行事への参加の推進」と「オリンピック・パラリンピックを見据えた教育」ということ、この４つについて取り上げさせていただきました。

それでは、学校教育関係かと思いますので、誰もが関心のある「学力向上への取組み」につきまして、教育長を初め教育委員の皆さんからご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

はい、どうぞ。

○真如教育長　それでは、私のほうから学力にかかわる内容についてのおよそですが、お話ししたいと思います。

学校、それから地域、保護者、全体を通して見ますと、学力向上に向けていろいろな立場で皆様が協力をして、一丸となって子どもたちの基礎的・基本的な学力を向上させていこうという、そういう動きが見られます。

例えば、一番話題に上がる教科の学力調査の結果ですが、その調査の結果を見ますと、全国的に一生懸命、何とか子どもたちの学力を高めていこうという、取組をしていますので、簡単に東大和が上位のほうに進んでいくということは、なかなか難しいところでありますが、子どもたちが家に帰って全く勉強しないというような時期から比べると、今は家に帰って家庭で学習をするという機会も増えてきました。そういうおかげで、少しずつながらですが、全国の平均を上回っていっているところが見られます。

例えば算数を取り上げてみますと、算数の応用的な学習についての調査結果でいきますと、平成25年度は全国を超えている学校が、市内小学校では10校中３校だったんですね。それが平成26年は２校ということで１回減ったんですが、その後、27年、２校、そして本年度は全国平均を超える学校が４校に増えてきております。ここにきて、それぞれの家庭や学校で取組を進めてきた成果があらわれているのではないかなと、私は考えております。

その一方、中学校につきましては、これはなかなか難しい問題で、小学校よりも成果を出すのは難しいんですが、全国を超えて学力調査の結果を上げてきたというのは、平成25年度から26年度――から27年度に１度、１校ありました。それから本年度も１校だけ。算数の数学の応用の面でいうとですね。ですから、ゼロだった、これから１校、１校とつながってきているので、上がってきていると言えば上がってきているんですが、小学校のように飛躍的に上がっているというような状況にはないという状況にあります。

教科の学力調査のこと以外では、子どもたちの挑戦意欲が非常に高くなってきて、そしてさまざまなコンテストに応募して、そして優秀な成績を上げてくれるというのが最近見られてきております。特に作文を書いて東京都に出したところが、５校、優秀校があったうちの２校が同じ学校の生徒、はっきり言えば三中です。三中の子どもの作文が非常に優秀だということを取り上げたこともありまし

たし、今年度も標語については十小でしたが、子どもが東京都から全国のほうに、すんでのところまでいっております。スポーツについても、それぞれの部活で成果を上げていますし、そういった意味では人間性といいますか、そういうところについては非常にたくましくなってきているなと感じております。これからも保護者、地域、それから先生方の指導力の向上に向けて、さらに働きかけをしていく中で、確実な学力を高めていけるようになってほしいので、こちらも支援をしてまいりたいと思っているところであります。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

○藤宮委員　学力向上のことで、よろしいでしょうか。

学力向上の取組事業として思いつきますのは、全小中学校で実施しています少人数学習指導員の配置と、それから担任教員と協力して授業を行う協力指導員の配置などがあります。中学校で実施している放課後等補習教室の実施や、小学校で実施している学習支援員の配置などの人的支援が行われていると思います。これらの人的支援は、きめ細かく一人ひとりの子どもに寄り添って、質的な向上を図ろうとする教育委員会の姿勢です。また、学校訪問などに何回も行かせていただいていますけれども、気がついていることは、どの学校も、小学校も中学校も多くの先生に見守られて、大変落ちついた環境の中で学習できていると私は感じています。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございました。

武石委員。

○武石委員　私も藤宮委員と同じように、落ちついた環境の中で学習を行えるということは、学力の向上の結果であることから、学力テストの結果は数値的にはまだ厳しい状況もあるかと思いますが、一人ひとりの子どもたちの学習に対する意欲は向上していると思っております。今後、継続して、このようなことが続いてきて、さらなる学力向上へとつながっていけたらと思いますし、家庭においてもテレビやゲーム、スマホなど、そういう時間を、なるべく家庭と学校と協力して減らすことなど、学校としても促して、また家庭の方にもそのように努力してもらって、学校の授業に集中できるようにしたりですとか、読書の時間を家庭でも

増やしてもらうですとか、そのような形で今よりもさらに学力の向上が進んでいけたらなと思います。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございました。

学校の学力向上は、いろいろな手だてを考えながらやっていただいていますが、少人数学級だとかスクールソーシャル、いろいろなことで、子ども一人ひとりにどう対処していくかということなのかなと思っているわけですが、まだまだこれからかなと思っています。

教育、学力向上という効果については、そんな簡単に、結果が出てくるとは思っていませんが、ただ少なくとも以前に比べるとご父兄の方々からは、良くなったという評価のほうが多くなってきたかなと思っています。ただ、まだまだこれからではないかなと思っています。そういった意味では、教育委員会にはそれぞれの学校にそれぞれ特徴あるかと思いますが、それに対して適切な対応をして、そこに在籍する子どもたちの学力向上という意味で、細かく指導なりをしていっていただければなと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

何かほかに。どうぞ。

○新藤委員　今、市長おっしゃるとおりだなと思いました。やはり子どもたちにとって学ぶ環境の整備というのはとても重要だなと思っています。今回の点検においても、点検・評価、有識者からの評価いただいておりますが、やはり人的サポート等については、東大和市は非常に良くやっているという評価をいただいておりますので、これらも継続して、さらに人的、あるいは物的な環境整備に努めていく必要があるかなと思っています。

特に今、新しい学習指導要領の改訂が進んでおりまして、平成32年からはその新しい学習指導要領が全面実施に入っていくというようなことになっています。29年度あたりからは、その前倒しで移行措置が始まってきますので、ますます教育委員会の人的サポート、あるいはソフト面でのサポート、あるいは校舎等の環境の整備等が非常に重要で、教育委員会の実力が試されるかなと思っているところでございます。

特に私自身が関心を持っているのは、学習している改善趣旨の中で、国語なんですが、小学校低学年での語彙の獲得量、つまり言葉をどれだけそこで獲得できたかが、そのまま後の学年、高学年に向け、あるいは中学校にいったときに、全

ての教科の学習の成績と非常に相関関係が強いということが言われていて、やはり小学校の低学年のときからいろいろな言葉に触れる機会を持っていく必要があるかなと私は感じています。

その中で、少し私が興味を持っているのが、山口県の萩市にあります明倫小学校というところが、これは有名で、ご存じだと思うんですが、１年生から６年生まで毎日、朝、吉田松陰の先生の言葉を唱えているんです。例えば、小学校１年生の１学期は、「今日よりぞ　幼心を打ち捨てて　人と成りにし　道を踏めかし」、今まで親にすがり甘えていたが、小学生となった今日からは、自分のことは自分でし、友達と仲良くしようという、こういう言葉を唱えていて、１学期、２学期、３学期、言っているんです。これは実は特別支援学級も同じでして、特別支援学級の３学期は、「人賢愚ありと雖も　各々一二の才能なきはなし　湊合して大成する時は　必ず全備する所あらん」、人には、それぞれ能力に違いはあるけれども、誰も一つや二つの長所を持っているものである。その長所を伸ばせば、必ず立派な人になれるであろう、こんなことを特別支援学級の子どもたちも毎朝、唱えている。

こういう環境というのが、子どもたちの言葉に対する関心を高めたりするので、非常に有効なのではないかなと。そういう意味では、東大和市の教育委員会のリーダーシップというのは、ますます試されてきているかなということを感じておるところでございます。

○尾崎市長　ありがとうございます。

今言った教育の国語ですか、語彙の力というか言葉、そういうものについて磨く、低学年でやるというのは、確かにいいかなと。私は、読み書きそろばんだけできればいいと、小学校は。それ以外、教える必要はないというのが、昔から持論というか、思っていますので、いろいろなことをやっていかないと世の中についていけないというか、上位の学校にいって苦労するということは、私からすると何か違うのではないかなと思うときもあります。ただ、今言ったその吉田松陰の言葉を、それは間違いないですよ。

東大和の自由民権運動発祥の地、その最初に衆楽会という、後援会というか、結社ができたときの最初に、そのお祝いの講演のときの言葉、小学生ですよ、それがすごく難しい、私、途中でやめましたが、これで10歳だとか12歳、今でいうと小学生、中学校低学年ですよ、そういう年齢の子が、こんなことを書いたんだ

と思うぐらい書いてあるんですよ。すばらしい言葉が書いてあります。

だから、そのときに思ったのは、教育というか、その大切さというのはすごいんだなと。15歳で、本当に事実そういうふうな活動をしているわけですから。ですから、明治５年の学制頒布の、その前から東大和は地域の豪農と言われる方々が私学、学校をきちんとやり、地域の子どもたちのためやってきた。そういう成果が、そういうところに出ているのではないかなと思います。ですから、そういった意味では、そういうふうなところには、ぜひ力をもっともっと入れていっていただいてもいいかなと思います。

ほかに何か。

○真如教育長　今の話を聞くと、確かに東大和には非常に長い歴史があるんだなということを感じますし、それについて誇りを持ってもらうということは、非常に大事だなと思っています。そんなこともありますので、子どもたち、また先生方には、そういった学習もどうだろうかという話をしていきたいと思います。

最近といいますか、もう新しい学習指導要領が目の前にきていると、いろいろな学校でいろいろな取組を進めているところがあります。東大和の校長先生方も、東大和にじっとしているのではなくて、先進的な学校訪問をし、そこから学ぶもの、あるいは先見性を身につけていただきたい。この間、杉並区の天沼小学校に校長先生方、小学校が中心になってですが、行ってまいりました。そこで、タブレットを使ってプログラミング教育という、これから将来、学習するような内容について見てまいりました。またそのほかに所沢の教育センターに行き、所沢市の教育について、どのような取組をしているんだろうかという、話も聞いたり見たりしてきました。

これからはいろいろな変化が出てきますので、できるだけ校長先生方には、学校を直接変えていく立場にありますので、そういったところに行っていただいて、私たちとともに教育課題について話し合う中で、先見性や、それから創造性、それから決断力、そういったものをしっかりと身につけていただき、さらに東大和の学校教育の質の向上に努めていっていただきたいなと思っているところであります。

また、英語の話につきましては、この間、月曜日、火曜日、石川県の金沢に行ってまいりました。そこで、前橋市の学校と教育委員会、それから金沢、石川県の七尾の教育委員会と学校、そちらから提案がありました。

英語については、今でも忙しい中で、なかなかその時間をどうやって生み出して、そしてどういうふうに子どもの教育に結びつけていくかというのを一生懸命考えておりましたが、英語につきましても、これから私たちは校長先生と一緒に、どのような取組をしていけば効率的に、子どもたちのコミュニケーション能力、そこに結びつけていけるかということについて、考えていきたいなと思っているところであります。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

子どもたちの学力向上に、いろいろな点でご尽力をいただいているということでありますが、英語教育、英語を話せるようになるとか、英語が理解できるようになるということは、私自身は先ほど言ったように、読み書きそろばんというふうなことでありますけれども、ただ世の中の流れの中では、やはりそういうふうなものは大切。ただ、言えるのは、英語を話せるとか、英語が理解できるというのは、あくまでもそれは手段であって、目的は別にあるんだということだけは忘れてもらっては困ると思うんです。自分の意思を伝えるための手段としての英語、外国語だと思います。

そういった意味では、先ほど新藤先生が言っていたように日本語の語彙を増やすだとか、そういう基本的なものを知り、日本の歴史などいろいろなことありますが、そういうふうなものをしっかり知った上で英語を話せるというならいいですが。

やはり外国の方は、多くの方は、その指導的立場の人たちというのは、結構、自分の国の歴史もそうですが、相手の国の民族性だとか歴史を結構質問をされるという話もよく聞きますので、そういった意味では、そのようなところを知っておかないとだめかなと。東大和、三多摩自由民権の発祥の地だということを言えるくらいでないと困ると思うわけです。

次の視点として、先ほど言いました「学校・家庭・関係機関の連携の強化」という点で、いろいろとお話をしていきたいなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

では、岩田委員。

○岩田委員　教育の日やまとや、市内の小中学生の意見文発表会などの事業がありますが、小中学生だけでなく、市内にある東大和高校や東大和南高校の生徒や市

民も交えて、さまざまな立場の人たちが東大和の教育を考えたり、かかわったり、支えていると私は感じます。

例えば教育の日やまとでは、市内の教員だけでなく、多くの保護者にも参加していただき、東大和南高校の演劇部の朗読劇「わたしたちのまち～戦争と変電所～」を上演をしてもらっています。

また、小中学生意見発表会では、子どもたちが、東大和が大好きで、誇りを持っているということがよくわかる話がたくさん聞けました。その後に、大和高校のダンス部によるダンス発表が行われ、その姿を見た小中学生が高校生に憧れて、目標を持っていろいろなことに向かっていってもらいたいと感じました。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

ほかに。どうぞ。

○武石委員　今、先生方には、現在教えている子どもたちが、近い将来、高校生になったときに、今のようなダンスですとか朗読劇ですとか、自分たちが高校生になったときの未来の姿を思い浮かべて、この先にある子どもたちの可能性をどんどん引き出してほしいと思っております。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

私もいろいろなところに出席をさせていただいています。そして、特に高校生と一緒になっていろいろな事業をしていただいているというところも、いいかなと思っているところであります。そして、特に意見発表会等、いろいろな活動をしている子どもたちがいますし、それ以外にも作文だとか標語だとか、いろいろなところで活動している子どもたちがいるわけです。そういう子というのは、経験を通して、次に高校生になったときも、そのような活動を進めているんだなと思いました。この間、ふれあい運動会で司会をしていた女の子は、意見発表会でやった、たしか上北高校の女子生徒なんです。

それから、あと南高校の平和事業というんでしょうか、あそこでやっていただいた演劇、あれなどもすごくうまかったと思うんです。あの脚本を書いたの職員なんですよね。職員にも、そのような者がいるのだと、ついこの間知りました。その脚本に沿って、子どもたちが対応して行っているということですね。あと音楽なども、一緒に行っているということで、少し前に比べるといろいろな高校と

の交流、それからあと中学生の中、そして子どもたち、小学生の中とか、あるいは小中の中とか、そういう連携というのは前に比べるとすごく出てきたかなと思います。

それから、ふれあい運動会で、全部の学校がリレー競走に参加したというのは、やはりすばらしいなと思います。初めてですから。これからは、一番早い学校はどこだというものをつくってもいいのではないかと、そのような話もしたんです。ただ、そういうことも含めて、もっともっとそういうつながりというか、中に外に出てくるというか、学校から外に出てくるということも、これから必要なのではないかなと思っています。そういった意味では、さらに活動を活発にしていってもらいたいし、またいろいろなところでかかわりを持っていてほしいなと思います。

ほかに何か。どうぞ。

○藤宮委員　行政・学校・市民が一体となった取組としましては、いじめ防止のシンポジウムの開催をいたします。これは、市民や保護者が子どもたちの考えていることを理解する大切な機会になっていると思います。子どもたちが地域の方々の意見や考えを聞いて、自分たちのその取組に自信を持ったり、新たに行動を改善できる大切な機会になっていると私は思います。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

どうぞ、新藤委員。

○新藤委員　いじめの防止のためのシンポジウムと、ほかにも豊かな心や規範意識を身につけさせるための道徳教育の充実という中で、長く道徳授業地区公開講座というのを開いて、保護者や、あるいは地域の方たちの協力を得て、子どもたちのそうした心の育成ということに取り組んできておりますし、また日本の子どもたちの特徴として、理科や数学の成績はいいんです。全国、世界で１位くらいとっているんですが、数学の授業が楽しいかとか、あるいは役に立つかといったときに、例えば数学で学んだことを生かした職業につきたいかと聞いてみると、国際的には50％、60％くらいの子たちが、そういう職業につきたいと言っているのに対して、日本ではたった18％。理科についても、理科で学んだことを生かした職業につきたいかと聞くと、やはりこれも20％くらいしかいないという意味で、

非常に理数離れというのが進んでいる中では、理数の専門家だとか、あるいはそれを生かした仕事をしている人たちに、理数授業特別プログラムという形で来ていただいて、ふだんの学校の授業と全く違う授業を見ることによって、子どもたちが数学や理科のものによっては考え方を変えていける、そういった中で自分自身の可能性を見ていけるというような授業もやっております。こういったことが教育委員会を中心にして実現できているところ、そういったところは今後ともやはり充実させていく必要があるのではないかなと思っております。

○尾崎市長　ありがとうございます。

今いろいろなお話がありましたが、いじめという言葉も出てきたかと思います。道徳ということなんですが、道徳というのは、何か非常に難しいような気もしないわけでもないと思うわけです。うっかりこうやると、すぐそれはどうだとか、カラダという横やりが入るようなテーマになるのかと。昔は「修身」と言いましたか。あれなどもたくさんあるが、それは今になじまないのもあるが、大切にしなければいけない、親子の関係とか、先輩、要するに先人との関係のことが、書いてありますよね。そのようなことは、大切にしなければいけないのだなと思います。そういった意味では、道徳というか、そのような授業というのも、これからもっともっとしっかりやっていかなければいけないのかなと思っています。

それから、理数離れという話も出てきましたが、数学というのは、何か数学の偉い学者が言うには、想像力を養う、今までにないものをつくるという意味では、数学の考えというのが大切なんだと言っていたが、そういうレベルまでいくまでの数学というのは大変、そこまでいくのが大変なのかなと思ったりはしているわけですが、どちらにしてもこれからもいろいろな形で、いろいろな学習等を受けられるような、子どもたちにとって受けられる機会というのは、これから増えてきているかなと思いますので、これからも積極的に進めていければなと思っています。

ほかに何か。どうぞ。

○真如教育長　このごろの東大和の小学校、中学校の子どもたちを見ていますと、また学校の指導の仕方を見ていると、随分、規範意識がしっかり身についてきているなと感じています。ならんものはならんということをしっかりと言って、そして子どもたちへの健全育成に結びつけているんだろうなと思っているところであります。

それで、いろいろな方とお会いして、そこから学ぶということは非常に大きいものであるなと思っております。あわせて外部の人が学校に入ってくると子どもたちも変わるんですが、学校の先生方が随分社会性というか、そういったものを身につけ始めて、非常にいい雰囲気で保護者、地域の方を迎えてくれているんだというようなことであります。ですから、これからもいろいろな機会に、いろいろな方に学校に来ていただいて、そして一緒にその学校教育を進めていっているんだという意識を持っていただきながら、その辺のところを育てていっていければいいなと思っているところです。

以上です。

○尾崎市長　学校、行政、そして家庭等、いろいろな方といろいろな関係があるわけですが、ただ外との連携をたくさんやろうとすればするほど学校の先生、大変だと思います。まず第一に、小学校の先生なども、外と連携するときに、子どもは、ええって言いますが、外の人たちは言ったって聞かないですから。いや、おかしいじゃないですかなんてすぐ言ってきますしね。だから、そういった意味では、どう言っても聞かない子どもが最近増えたらしいですが、ただそのような意味で、学校の先生もいろいろな面で、活動の範囲も、さらに昔に比べると広げてきて、大変だなと思います。いろいろな面で大変になっていきますが、ただそういうことを通すことによって、地域とのきずなとか、子どもとのつながりも深まっていくということになるかなと思っていますので、これからもそのような方向に進んでいっていただければなと思います。

次に、３番目、「児童・生徒の各種行事への参加の推進」についてということでいかがでしょうか。ご意見をいただきたいと思います。

はい、どうぞ。

○武石委員　昨年、教育委員会の基本方針の３の主要な事業として、「児童生徒の各種行事への参加の推進」を新たに追加しています。このことを踏まえて、平成27年度はさまざまな場面で児童・生徒の活躍を見ることができたと思います。例えば、ふれあい市民運動会では、先ほど市長もおっしゃられたとおり、各小学校、中学校から選ばれた選手によるリレーを行い、大変盛り上がったと伺っています。また、ロードレース大会では、小学生が前年に比べて増え、また中学生も前年に比べて大変参加の人数が増えていると聞いています。また、レースの終了後には、小学生を対象にした走り方教室なども実施して、好評を得たように聞いておりま

すので、今後もこのような事業といいますか、子どもたちの行事への参加をますます推進していけたらなと思います。

○尾崎市長　ほかにございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

○藤宮委員　私も、ふれあい市民運動会を見させていただいて、子どもたちがすごく楽しそうに元気にいろいろ参加している姿を見て、いいなと思いました。

また、市民文化祭では、華道展とか書道展とか写真展において、小学生、中学生、高校生の作品がたくさんありました。みんな本当に、「ええ、本当に小学生なの」、「ええ、これ本当に中学生なの」って言うほど力作が見られました。

また、別に郷土博物館においては、理科や社会や生活科や総合的な学習への学習投映というものが行われていまして、年間、去年に比べて41回ですよね、たしか41回も増えて109回とお聞きしています。プラネタリウムを使った学習投映も、去年に比べて８回を上回って48回、行われたようです。私も何回かプラネタリウムを見にいきましたが、あれが設営されているされたてよりもすごく良くなって、楽しくなりました。いろいろなプログラムが行われています。あそこの郷土博物館は、大変有効に活用されていると思っています。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

ほかに、どうぞ。

○岩田委員　私も社会教育事業への児童・生徒の参加は、年々増加していってすごく児童・生徒も力をつけてきているなと感じ、とても良いことだと思います。引き続き学校との連携を強化して、積極的な働きかけをしていっていただきたいと思います。

○尾崎市長　はい、どうぞ。

○真如教育長　ＰＴＡの方々、随分、子どもたちに気配り、目配りをしてくださり、何とか子どもたちが活躍する場面を多くしていこうという、そういう取組を進めてくださっているので、非常にありがたいなと思っているところです。その恩返しではないですが、私たちもおやじの会と一緒に交流をして、父親からなかなかいろいろなご意見を伺う機会、少ないんですけれども、そういった中でお互い相互理解しながら、こういったところは協力するよという声をいただいたり、あるいはこんなところを変えていってもらえないかというような声もいただいたりし

ますので、そういった意見を大事にしながら、これからも頑張っていきたいと思っているところです。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

いろいろな行事に子どもたち、生徒の参加の推進ということがあるかなと思いますが、以前に比べれば大分そういう場が増えてきたのかなと思っています。先ほどから、ご意見が出ているように、ふれあい運動会やロードレース、多摩湖駅伝、プラネタリウム等々、いろいろなところで子どもたちが活躍していると思いますが、ただ、まだまだかなという思いもございます。

そういった意味では、プラネタリウム等につきましても、メガスターを使ったいろいろな投映をしているわけですが、ああいう中に科学クラブではないですけれども、そういうクラブが学校の子どもたち、話に行くと結構好きだという子ども、中学生などもよく会ったりするんですが、そういう子どもたちの社会科の授業ではない、クラブの延長のようなものができたりとか、そのようなこともあってもいいかなという思いもございます。

また、多摩湖駅伝大会については、中学生、大勢の方に協力していただき、参加していただいているわけですが、喜多方市からは来ているが、東大和からは行っているのかなと思ったりしました、予算のことがありますから難しいのかなというふうなことも考えられるわけですが、そのような交流も、いろいろ考えてもらってもいいかなと思ったりしているところであります。

そういった意味では、郷土博物館等を含めて、狭山丘陵等、もっともっとその学校の授業というもの、それからあとクラブ活動の一つのフィールドワークの中に生かしていっていただくといいのかなと思っています。近場にああいうふうな自然、あるいはプラネタリウム、すばらしいものがありますので、そういうふうなものを活用できるような、そんな形でやっていっていただくと、より一層いいかなと思っています。

私のほうからは、そんな感じでよろしいでしょうか。

それでは、続きまして今度は４番目のテーマ、「オリンピック・パラリンピックを見据えた教育」について、皆さん方の意見をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

はい、どうぞ。

○岩田委員　社会教育関係でも、オリンピック・パラリンピック大会に向けた取組を多く行っています。

先ほど話が出ていましたが、ロードレース大会では、大会後の「走り方教室」、また多摩湖駅伝での「招待選手の出場」は、東京都のオリンピック・パラリンピック関連の補助金を活用して行ったものであり、一流の選手の走り方を間近で見るということは、子どもたちにとってもとても良い刺激になったと感じました。また、障害者スポーツの普及啓発のための「車いすバスケット大会」と、市内小学校３校で実施した車椅子バスケットボールの体験教室はとても好評だったと聞いています。2020年の東京オリンピック・パラリンピックまで、あと４年を切りましたが、児童・生徒の一生の思い出となるような経験や取組を、これからも実施していっていただきたいと思います。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

ほかに。どうぞ。

○武石委員　次の東京オリンピックに向けて、小学生から中学生まで、それぞれの学年に応じたおもてなしなどができるようになってほしいと思います。また、ぜひ東大和の魅力についてもアピールできるような教育をしてほしいと思います。

○尾崎市長　ありがとうございます。

ほかにありますか。どうぞ。

○藤宮委員　東大和市の学校、全学校がオリンピック・パラリンピックの教育推進校の指定を受けていまして、いろいろな事業を展開しているという報告を受けています。子どもたちにとっても、これは大変に良い機会になっていると私も思います。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

ほかに。はい、どうぞ。

○真如教育長　私は、東京都のほうでオリンピック・パラリンピックの教育を考える有識者会議に出ていたが、やはり地理的な問題として、東大和の場合は都心から離れているので、直接オリンピック・パラリンピックを体験する機会が、気をつけないと少なくなってしまうという心配がありましたので、何とかそういうことがないように、いろいろな機会を東京都から、また多摩地区の学校に提供して

いただきたいという話をしてきました。

オリンピック関連にしては、この間、雨だったんですが、オリンピック・パラリンピック機運醸成のためのフェスティバルがありました。あのときはＰＲしたんですが、なかなか手を挙げる学校、少なかったんですよ。ですから、そういうことがないように、校長先生方にも貴重な機会だということを繰り返し話をして、１人でも多くの子どもがそういった機会に参加していけるように、努めていただきたいというようなことを、今後またいろいろなことがありますので、こちらも気をつけて進めていきたいと思っているところです。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

どうぞ。

○新藤委員　この４年後のオリンピック・パラリンピック、大きな意味でいろいろな子どもたちのチャンスだなと思っております。特にやはり外国の方だとか、あるいは障害のある方に対する偏見や差別というのは、子どもたちの間で若いうちにきちっとやっておけば、偏見、差別というのは完全にないと思いますし、そういった意味では、今後、国際社会の中で生きていく人間にとって、やはり偏見や差別のない子どもたちを育てていくというのは非常に重要なので、ここのところというのは非常に有効だろうと思っていますし、それからまた言葉に対して抵抗があって、物おじするというところが、やはりどうしても日本人、強いなと思うので、例えば本市でやっていますアメリカン・サマーキャンプなどに参加した子どもたちの感想などを聞くと、やはり英語に興味関心、非常に持っていますし、もっと積極的に話せば良かったというような感想を持っていますので、そういった意味では今回行われて、４年後に向けたオリンピック・パラリンピック教育の中で、子どもたちがいろいろな方たちと接して、偏見のない、あるいは物おじしない、そういった子どもたちに育って、活躍してくれることを期待しているところでございます。

以上です。

○尾崎市長　ありがとうございます。

今年も３回目、アメリカン・サマーキャンプということで、アメリカン・サマーキャンプは英語だけでやるということで、その成果というのは、全体から見れば少しの子どもですが、レベルが上がったということで、成果はよろしいわけで

すか。

○真如教育長　お手元にお届けしてあります教育長日記107号の資料をご覧ください。１日の計画を出してありますが、行った子どもたちは、私も見にいったんですけれども、非常にコミュニケーション能力が、何日かの間にぐっと高まるなというようなことを感じました。担当した指導主事に話を聞いても、必ずしも学校で優秀な算数や国語の成績を上げている子どもだけではなくて、行ったらがらっと人を変えられるというのが、アメリカン・サマーキャンプのいいところだと。そういう話をしていましたので、連れていく人数は少ないんですけれども、そういった機会も大事にしながら、コミュニケーション能力をさらに高めていって、国際感覚も身につけて帰ってきてくれればいいなと思っているところであります。

今後ともよろしくお願いします。

○尾崎市長　わかりました。よく考えます。

今回、オリンピック・パラリンピックを見据えた教育ということで、いろいろなことがこれから起きてくるのかなと思っていますが、東大和の場合は全体的に通して、オリンピック・パラリンピックと言うと、直接的に何かをするということはないというふうに、競技を何かしたりとか、そこの選手がどうというのはなかなか難しい、要するに施設等、宿泊施設等も含めて、なかなか条件に合わないのではないかなと思います。ただそういう中でもオリンピック関係を進めている東京都の方が、応援プログラムというと結構いろいろなものに活用できると思っていますので、今現在やっている事業にプラスアルファをつけることによって、応援プログラムというのは結構いろいろなものを使えるだろうと。要するに、エンブレムも、応援のエンブレムも使えるようになりますし、そういった意味では教育委員会のほうでも積極的にそのようなものを活用して、現在の事業、そしてそれにプラスアルファした応援プログラムというものをやっていっていただければいいかなと思います。

私ども東大和市で実際に何かできるとなると、やはり車椅子バスケットボールはもう前からやっていて、去年は大会の実施が危なかったんですよね、何か人気が出てきたら、他の街でやるなんてとんでもない話だって、社会教育部長が交渉して実施できたんですけれども。そういうのって、そういうふうに人気が出たというか、来てくれというふうな声がたくさんかかったのかどうか知らないですけれども、やはり長く我々は車椅子バスケットって、体育館を使って理解して進め

てきたんだと職員も言っているわけですから、そういうふうなものを我々は受け入れて、そしたらこれからも一生懸命やっていこうという気が少し失せちゃうというようなところも出てくるわけですけれども、そういった意味ではそういうふうな団体を含めて、できるだけ実際に障害のスポーツというか、そういうふうなものを、この市内の中でいろんな者に来ていただいて、見ていただくとかというのは、大切かなというふうに思いますし、それから障害者がごく普通に身近にいるというふうな社会というのは、大切だというふうには思っています。

ですから、障害者の方々が健常者の方々を含めて、一緒にいて違和感がないような感じの、そんなまちづくりが必要だろうなと思っています。ですから、障害のある方とも、私自身も長いおつき合いさせていただく方が何人かおいでになりますけれども、最初のころはすごく、初めて会って、紹介されて会って話をしたときは違和感があった、どう接していいかわからない。だけど、今はもう障害があるという以前に、ごく普通に話ができるというか、しようがないじゃないか動けないんだからなんて、そういう普通じゃ言えないような言葉かもしれないけれども、それに対しても会話を通して、そしてそれが動けるように、ごく普通に動けるようにするのが、我々のこれからの仕事だろうと。動けるのは当たり前、動けるようにしているのは当たり前という、そんな感覚を大勢の人に持ってもらうといいのかなというふうには思ってございます。

そういった意味では、これからも教育委員会等、皆さん方と情報を共有しながら、東大和の教育、これは社会教育も含めてということになるかなというふうに思いますけれども、そんなものをより一層、さらにレベルアップしていければと思います。財政的な負担が、いろんなことがかかってきますけれども、でき得る限りその辺のところも対処していきたいと。

私どものほうは、教育環境を整備して、少しでもそういうふうなものを良くしようというふうなことを基本に進めていきたいなと。また、学校の子どもの学力向上や、あるいは社会教育における市民参加等を含め、生涯学習については教育委員会のほうにお願いしたいなと思っていますが、社会教育については、多少余計なことを言ってきたなというところもあるかもしれません。学校教育は子どもの学力向上ということで、お任せするというところが結構あったかなと思いますが、社会教育のほうも同じように、しっかりとこれからやっていきたいなと思っていますし、そういった意味では社会教育のほうも、東大和にとっては大きなも

のになるのかなと思っています。これからいろいろな面で、教育委員会と力を合わせてやっていきたいなと思います。

特にこれから平和事業ということで、社会教育関係で変電所だとか、それから博物館の皆さんにお力をいただきながら、今それに力を入れて、全国津々浦々にあの建物を知らしめるということで頑張っていきたいなと思っています。そういった意味では、東大和の平和事業という意味で、あそこのシンボルである変電所についても、社会教育のほうで、あるいは学校教育の中で積極的に教材なりとか、生涯学習の中での題材にして、積極的に使っていただきたいなと思っています。

また、もう一つ、さっき申し上げた三多摩自由民権運動、あれはよくよく調べると三多摩だけではなくて東京、首都圏というか、そういうレベルであっても、一番早く結社がつくられた東大和でありますので、そういうところの研究というか、講演だとかを含めて、これからも、社会教育にしっかりとこれからもやっていただきたいと思っています。再来年は五日市憲法発見50年、明治、150年ということで、節目の年なので、五日市憲法は東大和で、奈良橋で最後、詰めがあそこでできたと、それは間違いないということで、いろいろなところで聞いて回っても、可能性はありますとの答えなので、私はそうだと思っていますし、可能性はあるということで、最後の最後に東大和に。だから、そういった意味で、そのようなものもいろいろなところで、生涯学習、学校教育、社会教育の中で、テーマの一つとして取り扱って、東大和をより一層いろいろなところに知っていただくように、進めていっていただきたいなと思っています。

教育の関係ということで、私自身も勉強させていただいていますが、これからもいろいろ面で皆様のお力をいただきながら、進めていかなければいけないと思っていますし、また私のほうも言いたいこと、いろいろな所を回っていますので、もし気がついたことがありましたら、ご指導いただければなと思いますので、今後ともよろしくお願いしたいというふうにお願いします。

最後、まだ時間がありますので、委員の皆さんから何かご意見等があれば、自由にお話をしていただければと思いますので、よろしくお願いします。

特にいいですか。

また、どこかの機会で会ったら、遠慮なく耳で伝えていただければ、私のほうもできることはできる、だめなものはだめだということで、しっかりと対応させていただきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

◎閉会の辞

○尾崎市長　本日はありがとうございました。

午後　４時２５分閉会